

セッション	順番		発表	質疑	名前	演題名	座長
ワーク ショップ1 『外科疾患 を科学す る』	1	10:00-10:10	7分	3分	田中 達也	食道癌周術期における筋肉量と筋力変化の検討	神戸大・小谷穰治先生
	2	10:10-10:20	7分	3分	坊岡 英祐	上部消化管癌における免疫チェックポイント阻害剤の治療効果予測因子	
	3	10:20-10:30	7分	3分	加藤 瑛	大腸がん微小環境におけるIL-6を介したアポトーシス抵抗性獲得機序の解明	
	4	10:30-10:40	7分	3分	佐野 真規	ラット下肢リンパ浮腫モデルにおけるサイトカイン変化	
	5	10:40-10:50	7分	3分	山崎 裕人	肝類洞閉塞症候群における血小板の役割とバイオマーカーの探求	
	6	10:50-11:00	7分	3分	小澤 洋平	食道癌手術患者における高感度CRPの有用性の検討	
ワーク ショップ2 『救急侵襲 病態を科学 する』	1	11:10-11:20	7分	3分	蛭原 健	血中IL-6異常高値が見られた難治性ショックの1救命例	千葉大・中田孝明先生
	2	11:20-11:30	7分	3分	田地 慶太郎	オランザピンは成体ラットでの術後認知機能障害を軽減する	
	3	11:30-11:40	7分	3分	高橋 利英	マウス頭部外傷モデルにおける新規の酸化ナノメディシンを用いた脳保護効果	
	4	11:40-11:50	7分	3分	齋藤 征爾	遺伝子組み換えトロンボモジュリンを投与した消化器外科領域周術期DICの治療成績	
	5	11:50-12:00	7分	3分	松本 寿健	急性炎症性疾患におけるサイトカインネットワーク	
	6	12:00-12:10	7分	3分	滝沢 聡	侵襲時における白血球の多様性～低比重好中球の役割～	
パネルディ スカッション『PICSを 科学する』	1	14:30-14:42	9分	3分	松石 雄二郎	PICSを包括的にアセスメントすることは可能か？	神戸大・井上茂亮先生
	2	14:42-14:54	9分	3分	藤浪 好寿	マウス敗血症モデルは、PICS症状を引き起こす	
	3	14:54-15:06	9分	3分	高橋 雄治	気管挿管後嚥下機能障害に対する嚥下電気刺激装置を用いたリハビリの可能性	
	4	15:06-15:18	9分	3分	井上 茂亮	敗血症患者における身体・精神・認知障害の発生頻度とその特徴、長期予後に関する検討	
		15:20-15:50			総合討論		
優秀演題 セッション	1	16:00-16:10	7分	3分	傳田 悠貴	外科侵襲によるサイトカインが膵癌再発を助長するメカニズム	井上貴昭 会長
	2	16:10-16:20	7分	3分	齋藤 雅史	γ δ T細胞は敗血症後の脳内に増加し、マウスの不安様行動の増悪に関与する	
	3	16:20-16:30	7分	3分	秦 奈々美	重症COVID-19肺炎における血中Interleukin-6(IL-6)測定の意義	
	4	16:30-16:40	7分	3分	光山 裕美	敗血症の病期における単球由来サイトカインシグナルの役割	
	5	16:40-16:50	7分	3分	清水健太郎	重症患者における腸内細菌叢の変化と腸管免疫	